

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 30 日作成)

委員会名	火災安全設計小委員会	主 査 名：萩原一郎
所属本委員会 (所属運営委員会)	防火委員会	委員長名：長谷見雄二
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>建築基準法が改正され、防火規定の一部に性能基準が導入された。火災安全を性能で語ることが始められた訳であるが、性能を適切に評価するツールが十分に用意されているとは言えない。火災安全設計を実務として行う上で必要な評価ツールの開発を通じて、火災安全設計の手法を広く社会に普及させる。</p> <p>2001 年度：「建築物の火災安全設計指針」の執筆。</p> <p>2002 年度：「建築物の火災安全設計指針」の出版及び講習会の開催。 「第 4 回性能的規定と火災安全設計法に関する国際会議」において、ケーススタディの論文発表。</p> <p>2003 年度：「建築物の火災安全設計指針」の改訂作業。計算例の追加。 「第 5 回性能的規定と火災安全設計法に関する国際会議」に投稿するケーススタディの実施。</p> <p>2004 年度：継続。改訂原稿の作成。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	萩原 一郎 (国土技術政策総合研究所)、大宮 喜文 (東京理科大)、野竹 宏彰 (清水建設)、田中 哮義 (京都大)、辻本 誠 (名古屋大)、中道 明子 (日本建築総合試験所)、富松 大基 (日本設計)、原田 和典 (京都大学)、林 広明 (大成建設)、福井 潔 (日建設)、北後 明彦 (神戸大学)、松山 賢 (東京理科大)、山口 純一 (大林組)、山田 常圭 (消防研究所)	
設置 WG (WG 名:目的)	<p>局所火源に対する耐火設計 WG: 開放的な空間の耐火設計に焦点を絞り、耐火設計用の局所火源および火災性状、部材温度の計算法のフレームワークを提案する。成果をシンポジウムで発表する。</p> <p>ケーススタディ WG: 第 5 回国際シンポジウムに投稿する火災安全設計のケーススタディ論文を作成する。</p>	
2003 年度予算	135,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003.4.25 5 人。2003.7.11 8 人。2003.9.10 7 人。2003.10.31 13 人。 2003.11.26 12 人。2003.12.19 11 人。2004.1.22 11 人。2004.2.27 13 人。 2004.3.26 10 人 以上 9 回。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>国際シンポジウムに発表した性能的火災安全設計のケーススタディをもとに投稿した以下の論文 2 編が技術報告集に掲載された。</p> <p>「高層ホテルの性能的火災安全設計ケーススタディ」, No.17, pp.185-190, 2003.6</p> <p>「開放式駐車場の性能的火災安全設計ケーススタディ」, No.17, pp.191-196, 2003.6</p> <p>また、本年 10 月に開催される第 5 回の「性能的規定と火災安全設計法に関する国際会議」に投稿するケーススタディを、WG メンバーを中心に進めている。</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 上記のケーススタディに多くの時間を費やしているため、当初予定していた「建築物の火災安全設計指針」の改訂、計算例の追加作業は大幅に遅れているため、次年度に集中的に実施する予定。
その他評価すべき事項	